

玉作工屑跡の復元模写



歴史民俗資料館全景



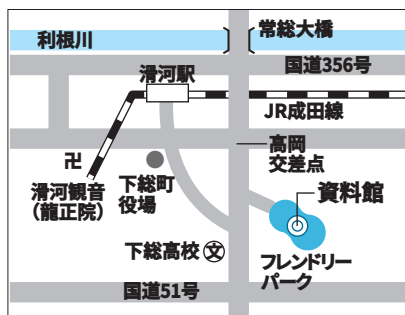
下総町・大栄町

次世代に伝えたい 歴史遺産・伝統芸能



利根川に育まれた人々の暮らしが一目瞭然に

下総町立歴史民俗資料館



開館時間 午前9時～午後4時30分
休館日 月曜日、祝日の翌日、年末年始
入館料 無料
アクセス JR滑河駅下車徒歩15分、JR成田駅から車で25分
問い合わせ先 下総町立歴史民俗資料館 ☎96-0080

町制施行40周年を記念して、平成7年2月下総町総合運動公園「フレンドリーパーク」下総の一角に建てられた資料館です。利根川に育まれた先人の歴史と民俗関係の資料がテーマ別に展示され、年3、4回の企画展も開催しています。また、ロビーの町民ギャラリーでは、町民や小・中学生の文化活動を紹介する作品展が年に数回開催されています。

常設展示室では、県の指定文化財である猫作・栗山古墳群第16号墳副葬品、町指定文化財の大和田玉作遺跡資料などの考古資料や県の伝統的工芸品である下総鬼瓦や農具などの資料を見ることができます。

玄関横に展示されている煉瓦ブロックは、明治7年に建てられた犬吠崎灯台の煉瓦です。下総町高岡地区の土を使って造られ、灯台や官舎・倉庫に使われました。展示されているブロックは、旧官舎(当時は退息所と呼ばれた)に使われたもので、130年ぶりに故郷に帰ったものです。

ナウマンゾウの頭骨化石

資料館常設展示室で最初に見る展示物で、昭和46年、猿山地区(現在の役場付近)から出土した化石(複製)本物は国立科学博物館です。当時、ナウマンゾウの頭骨がほぼ完全な形で発見されたのは日本で最初のことで、とても貴重なものでした。県立中央博物館ではこれをもとに全身の骨格復元模型を展示しています。



里帰りした犬吠崎灯台の煉瓦

高岡地区の土を使って造られ、灯台や官舎・倉庫に使われました。展示されているブロックは、旧官舎(当時は退息所と呼ばれた)に使われたもので、130年ぶりに故郷に帰ったものです。





少女から役者へ



町内外から集まったファンを魅了した伊能歌舞伎（平成17年4月17日）



伊能歌舞伎

伊能歌舞伎は、大栄町伊能地区にある大須賀大神春の例大祭の奉納芝居として、約300年の歴史をもつ伝統行事です。60年前の戦争中でさえほとんど中止されることなく上演し続けられました。

この芝居は、「イノノシバヤ」（伊能の芝居と呼ばれても著名ですが、かつては前林・吉岡・津富浦地区でも行われ、地域の人々にとって数少ない娯楽の一つでありました。

昭和36年には、県の無形民俗文化財に指定されましたが、娯楽の多様化、高度経済成長による時代の流れに加え、火災による衣装の消失などで、昭和40年の公演を最後に歌舞伎の上演は途絶え、文化財の指定も解除されました。

しかし、住民の復活を願う熱意と町おこし施策を背景に、平成10年に伊能歌舞伎保存会が結成されました。「衣装や下座は何とかなる。何よりも歌舞伎をやる」という気持ちが大切と助言を受け、翌11年には34年ぶりの復活公演を果たします。

現在、伊能歌舞伎は年数回の町公演のほか

長台詞も堂々と



町民の熱意に支えられ

秋の伊能歌舞伎の上演

●10月16日（日）房総のむら（仮953333）

●11月20日（日）大栄町コミュニティプラザホール（大栄町生涯学習課 0478-737071）

※演目・開演時間については現在未定です。9月15日号「広報なりた」でお知らせします。

かに、各地から公演依頼がくるほど人気を博しています。「県立房総のむら」には前林地区の舞台が復元され、この秋に上演が予定されています。